



令和5年度 三重森林管理署 重点取組事項

林野庁近畿中国森林管理局三重森林管理署は、国有林の公益性を重視した管理経営と森林・林業の再生への貢献を柱としつつ、国有林が持つ組織、技術力、資源を活かし、木材の安定供給、路網の整備、低コスト林業に向けた取組を実践するとともに、民有林との連携を積極的に展開していきます。

令和5年度 三重森林管理署 重点取組事項について

目次

1 公益重視の管理経営の推進等

- ① 治山事業による国土強靱化
- ② 生物多様性の保全
- ③ 木材の安定供給・利用

2 「新しい林業」の確立に向けた取組の展開

- ① 造林の低コスト化・省力化に向けた取組
- ② 素材生産の省力化等に向けた取組
- ③ 鳥獣害等対策の推進
- ④ ICT技術の活用推進

3 民有林関係者等多様な主体への技術支援・普及

(参考) 令和5年度の主な事業量

1 公益重視の管理経営の推進等

地域資源の循環利用を図りつつ、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全等公益的機能の維持増進を旨とし、森林整備事業や治山・林道事業の計画的かつ効率的な実施、保護林等の保全・管理を通じて、公益林として適切に管理経営を行います。

治山事業による国土強靱化

鍛冶屋又国有林及び官行造林地の崩壊地への対応（民国連携）

平成23年9月の台風12号により約10haもの大規模な深層崩壊が発生したことから、三重県、紀北町、三重森林管理署の3者で協議を重ね、上下流が連携した復旧に対応しています。

令和3年度には、2回目となる堆積土砂の浚渫及び流木の除去を実施しました。

今年度も、現地の状況を見ながら今後の流出土砂等の対応について、3者協議会の開催を予定しています。



崩壊地直下の状況



【流木等捕捉のためのスリット谷止工 土砂・流木撤去前後】

（紀北町 鍛冶屋又国有林及び鍛冶屋又官行造林地）

復旧治山事業の実施（大杉谷）

大杉谷国有林においては、平成23年9月の紀伊半島大水害により、二ホンジカの食害により生じた未立木地が拡大し、これまでの森林再生に向けた各種取組だけでは表土の流出、溪流の荒廃を食い止めることは困難な状況となっています。

このため、令和4年度から地池谷において溪岸侵食の防止・溪流堆積土砂の安定化のための溪間工事を行っています。

令和5年度も、鋼製枠谷止工1基を計画しています。



【令和4年度に施工した鋼製谷止工】



【令和5年度溪間工予定箇所】

（大台町 大杉谷国有林）

海岸防災林造成事業の実施（七里御浜）

七里御浜国有林では近年、台風等による影響で海岸侵食及び塩害が発生し、マツ林が衰退して防災機能が低下しているため、令和3年度からマツクイムシへの抵抗性クロマツの植栽工や防風垣工を実施しています。

令和5年度も継続して、海岸防災林造成事業を実施していく予定です。



【塩害等発生時の海岸林の状況】
（御浜町 七里御浜国有林）



【海岸防災林事業の実施状況】
（御浜町 七里御浜国有林）



【七里御浜国有林の位置】
（熊野市、御浜町、紀宝町）



【植栽したクロマツが順調に生育】
（御浜町 七里御浜国有林）

関連事業 マツクイムシの防除等

七里御浜国有林（熊野市、御浜町、紀宝町）においては、これまでクロマツへの樹幹注入やクロマツ被害木の伐倒駆除等を実施してきており、令和5年度も伐倒駆除を予定しています。また、青岳、焼尾（伊賀市）の各国有林でも実施する予定です。



【樹幹注入の状況】
（七里御浜国有林）



【伐倒駆除の実施状況】
（伊賀市 焼尾山国有林）

コラム 七里御浜国有林について

七里御浜国有林は、熊野市から御浜町を経て紀宝町に続く約25 kmもの延長を有する海岸林で、白砂青松100選に選ばれ、吉野熊野国立公園、世界文化遺産でもあるほか、防風保安林に指定され、国道、鉄道、市街地、農地等を守っています。

マツ林がマツクイムシにより被害を受け、その防風効果の後退が懸念されるようになったことから、県、市町等との連携を図りつつ、地域の実情に応じた防除等を行い、適切な森林の保全管理を図っています。



大杉谷国有林における植生保護柵設置・森林整備

1 植生保護柵設置等

大杉谷森林生態系保護地域が設定されている大台ヶ原一帯において、ボランティアの方々の協力を得て、

- ① 樹木保護ネット巻き（平成10年度～）
- ② トウヒ等稚樹周辺に2.5m四方のパッチディフェンス設置（平成20年度～）

を実施しています（平成27年度から環境省と共催）。

今年度は、9～10月頃に稚樹周辺のササの刈り払い、パッチディフェンスの設置や点検・修理を行います。



【樹木保護ネット巻きの状況】
（大台町 大杉谷国有林）



【パッチディフェンス設置状況】
（大台町 大杉谷国有林）

2 未立木地の森林整備

上記以外の地域で植生が衰退し未立木地となり、土砂の流出の恐れが高い箇所等では、二ホンジカの侵入防止を図るパッチディフェンスを設置しシカによる採食防止を図り、地域性苗木（注）を適地適木で植栽することにより、森林植生の回復を図ります。



【地域性苗木植栽4年後】
（大台町 大杉谷国有林）

（注）その地域に自生している樹木から採取され、採種場所・月日など履歴が確かな苗木

大台ヶ原（大杉谷）における国立公園との連携

大台ヶ原一帯では、植生保護柵設置等に加え、二ホンジカの捕獲も環境省近畿地方環境事務所と連携して行っています。



【シカ捕獲に係る環境省近畿地方環境事務所との現地打合せ状況】



【環境省との共催による「大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団」】

コラム 大杉谷国有林の特徴と森林の衰退

大杉谷国有林（大台町）は、近畿地方では希少な亜高山帯性針葉樹林や冷温帯性広葉樹林がまとまって分布し、吉野熊野国立公園に指定され、森林生態系保護地域が設定されているなど学術的にも貴重な地域となっています。一方、昭和30年代の伊勢湾台風等による風倒木被害の後、林床が乾燥化しミヤコザサの分布が拡大してこれを餌とする二ホンジカの生息数が急増し、下層植生の衰退、森林更新の停滞が生じました。二ホンジカの食害からこの地域の貴重な森林生態系を保全するため、平成24年度に策定した「大杉谷国有林における二ホンジカによる森林被害対策指針」に基づき、森林被害の拡大防止と森林再生に取り組んでいます。



【未立木地化した箇所の状況】

木材の安定供給の推進

森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、森林吸収源として必要な間伐や、育成複層林への誘導伐など多様で健全な森林づくりを推進しています。

また、地域における国産材の安定供給体制の整備に資するため、地域の木材価格や需給動向を把握しながら、森林整備の結果発生した間伐材等の持続的かつ計画的な供給に努めています。

令和5年度は、悟入谷国有林（いなべ市）、妙婦谷国有林（紀北町）、大又国有林（熊野市）の3地区において、1haの主伐及び224haの搬出間伐を実施し、素材として6,300m³生産します。

素材の販売予定量

令和5年度	材積 (m ³)
委託販売	1,960
システム販売（一般材）	2,420
システム販売（原料材）	1,920
計	6,300



【生産事業箇所での集材の状況】
（西谷国有林 熊野市）



【木材市場での間伐材の委託販売】
（熊野原木市場）

（参考）素材の販売方法

①委託販売

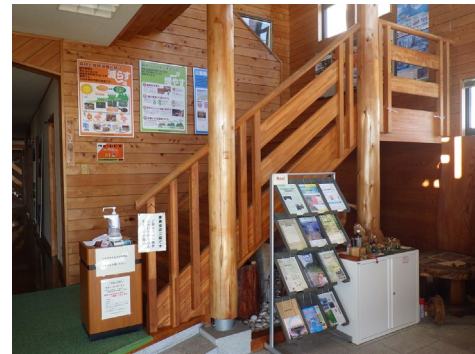
あらかじめ契約を締結した原木市場を通じてセリ等により販売。

②システム販売

国産材の需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む製材工場等と協定を締結し安定的に供給。

木材利用の推進

署の庁舎、内装、机などに木材を積極的に利用し、木材のPRに努めています。



【近畿中国森林管理局管内の国有林材をふんだんに使用した庁舎内装】

また、署で発注する土木工事においても、木材の積極的な利用に努めています。



【木材を利用した土留工】
（御弁当谷（ごべつとだに）林業専用道改良工事）

2 「新しい林業」の確立に向けた取組の展開

森林・林業基本計画で位置づけた、イノベーションで伐採から再造林、保育の収支をプラスへ転換させる「新しい林業」の実現に向け、近畿中国森林管理局に設置された「新しい林業」推進プロジェクトチームの一員として、低コスト再造林、効率的な鳥獣被害対策をはじめとした各種取組を行います。

造林の低コスト化・省力化に向けた取組

下刈の省力・削減等の取組

1 下刈の省力・削減

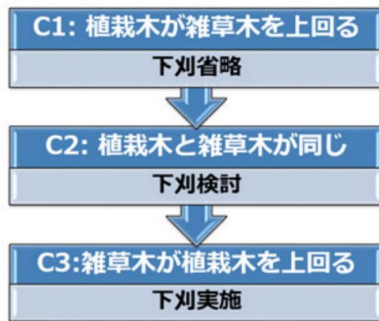
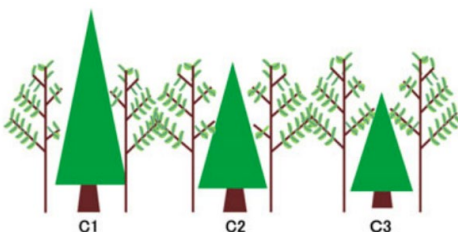
再造林後の下刈は、コスト、労力の観点から大きな課題となっています。

このため、画一的な下刈を実施するのではなく、植栽木と雑草木の競合状態を見極めながら下刈を省略し、下刈回数をトータルで2.5回以下に削減することを目標に取り組みます。

また、省力化の観点から、下刈を冬期に実施する試行に引き続き取り組みます。

2 その他の取組

苗木の植栽本数については、ha当たり2,000本を目安としていますが、今後、さらに本数を減らすことについても検討していく予定です。



【下刈の目安】



【冬下刈後の状況】
(いなべ市 悟入谷国有林)

エリートツリー苗、特定苗木等の植栽試験

令和4年度、新たに悟入谷国有林に成長の優れたエリートツリー（注1）苗及び特定苗木（注2）を植栽しました。

今後、下刈回数のいっその削減が期待されます。

また、早生樹であるセンダンやコウヨウザンの植栽試験も行っています。



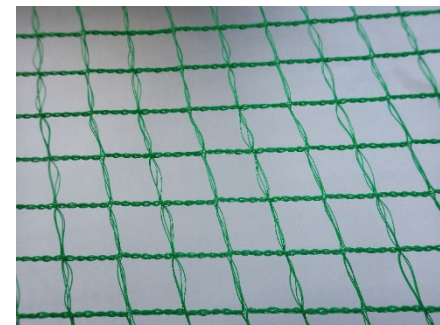
【エリートツリー苗の植栽】
(いなべ市 悟入谷国有林)

注1：地域の人工造林地において最も成長が優れた機として選抜された「精英樹」のうち優良なものを人工交配によりかけ合わせ、その中からさらに優れた個体を選んだもの

注2：特に優良な種苗を生産するための種子の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたものとして農林水産大臣が指定する特定母樹から採取された種穂から育成された苗木

シカ防護対策

新植予定箇所のシカ被害対策について、従来型の防護柵の機能を維持しつつ、設置方法の工夫により資材量を減らすとともに、現行より設置費を約3割削減できる低コストな資材を用いた防護柵設置の試行を行います。



【低コストな資材の例】
(ラッセル織で目合16mm)

収穫調査の効率化・省力化

署が行う収穫調査については、地上レーザー計測の導入を進めるなど、効率化・省力化を進めていきます。



【地上レーザー計測による収穫調査に係る職員研修】

伐採と造林の一貫作業システムの推進

主伐後の再造林については、植栽時期を選ばないコンテナ苗を使用し、可能なところから一貫作業システムを導入しています。

従来の作業工程の例

伐採・搬出(夏～冬)

地拵・植付(春又は秋)

伐採から植付までを一括して発注

一貫作業システムの工程の例

伐採・搬出・植付

(1年目下刈省略)

林道事業による計画的な路網整備の推進

森林・林業の再生に向け、主伐・間伐等の森林整備を推進するとともに木材搬出コストの削減につなげるため、地形・地質や森林作業道等との接続にも考慮し効率的な路線線形となるよう路網整備を行っていきます。

令和5年度は、林業専用道の新設を1路線300m、改良を4路線で予定しています。

1 林業専用道の新設(尾鷲市)

路網がなく搬出できない箇所への搬出間伐等が可能となるよう、割石林業専用道の新設300mを予定しています。



【4年度に開設した樫木平(保色山)林業専用道】



【5年度の新設予定箇所】(尾鷲市 割石国有林)

2 林道改良工事(大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市)

各国有林の間伐時期や優先度を考慮し、4路線で改良工事を予定しています。



【森林共同施業団地内で利用者が多い御弁当谷林業専用道(4年度施工箇所)】(いなべ市 悟入谷国有林)



【4年度改良工事箇所】(松阪市 千石平国有林)

大杉谷国有林における二ホンジカの捕獲

「大杉谷国有林における二ホンジカによる森林被害対策指針」に基づき、シカの捕獲を行っています。また、捕獲に当たってはシカの生息状況を調査したうえで有識者等からなる「大杉谷における二ホンジカによる森林被害対策指針実施検討委員会」を開催して、令和3年度事業の実施結果に対する意見等を踏まえて実施します。

1 シカ捕獲事業（大杉谷国有林）

(1) 実施期間

- ・ 5～7月、9～10月のうち60日間以上。

(2) 事業内容

- ・ 小林式誘引捕獲等
- ・ 目標捕獲頭数80頭以上
- ・ 捕獲に係る評価・検証

(3) 錯誤捕獲の防止措置

- ・ 自動撮影カメラによる生息確認
- ・ 埋設穴のクマ対策



【委員会（現地）の開催状況】

2 シカ捕獲事業（大台ヶ原・大杉谷、環境省との連携捕獲）

近畿地方環境事務所、上北山村との三者協定に基づき実施。

(1) 実施期間

- ・ 5～11月のうち56日間以上。

(2) 事業内容

- ・ 小林式誘引捕獲等
- ・ 目標捕獲頭数30頭以上

(3) 錯誤捕獲の防止

- ・ 自動撮影カメラによる生息確認
- ・ 埋設穴のクマ対策



【くくりわなの設置状況】

3 生息状況調査（大杉谷国有林）

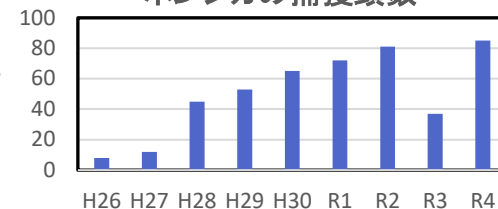
(1) 糞塊密度調査

- ・ シカの推定生息密度の年度変化を調査します。

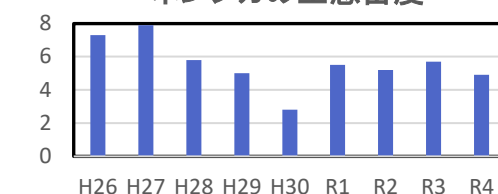
(2) カメラトラップ法を用いた捕獲効果の検証

- ・ 自動撮影カメラにより、シカの面的な生息状況の季節変化の把握、捕獲候補地や捕獲時期等の検証を実施します。

二ホンジカの捕獲頭数



二ホンジカの生息密度



○大型排水管による捕獲個体の処分

において、埋設穴にクマが現れ捕獲したシカを掘り返し、クマの錯誤捕獲も発生しました。

この対策として、新たに蓋を取り付けた大型排水管を使用して捕獲したシカを埋設する方法を導入します。



【使用する大型排水管】

悟入谷国有林等における民国連携したニホンジカの捕獲

この地域では、森林共同施業団地において民国連携による間伐等の森林整備を進めているほか、平成29年度から複層林への誘導伐を、平成30年度から植栽を実施しています。

一方、シカの生息密度が高く、主伐後の再造林箇所への森林被害が懸念されるため、平成30年度からシカの捕獲を実施しています。

さらに、令和3年度にいなべ市と協定を締結し、連携して捕獲を実施しています。

1 シカ捕獲事業（三重署事業）

(1) 実施場所

悟入谷国有林（いなべ市）
古野裏山国有林（桑名市）

(2) 実施期間

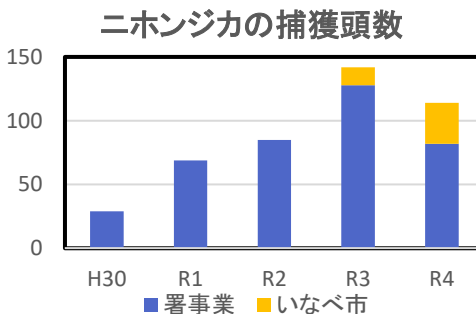
6～11月の75日間以上。

(3) 事業内容

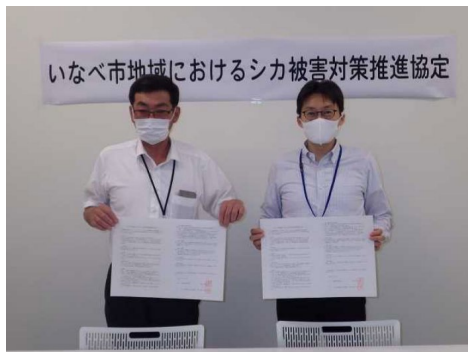
- ・小林式誘引捕獲等
- ・目標捕獲頭数120頭以上
- ・捕獲に係る評価・検証

2 協定締結による捕獲（いなべ市）

いなべ市にわなを貸し出し、シカの捕獲を実施しており、令和4年度は32頭を捕獲しました。



【シカの誘引状況】

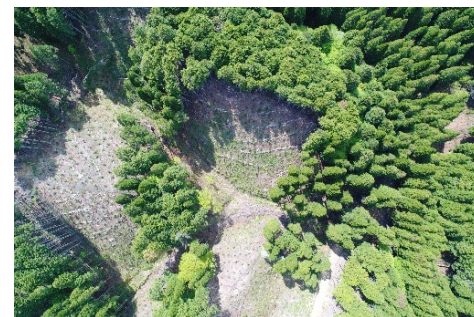


【いなべ市とのシカ被害対策推進協定締結】

ドローンの活用

1 林況等の把握

地域管理経営計画などの策定のため必要な管内国有林の林況の把握、素材生産候補地の把握等に使用しています。



2 山地災害発生箇所等の調査

治山事業の実施が必要な山地災害発生箇所の調査などに使用しています。

鍛冶屋又国有林において、既設スリットダムの土砂浚渫後の経過をドローンを用いてオルソ・DSM画像を作成し、土砂堆積及び流木捕捉状況の確認を行いました。



【土砂・流木撤去 完了時】

【土砂・流木撤去 半年後】

3 民有林関係者等多様な主体への技術支援・普及

戦後植林された人工林が本格的な利用期を迎える中、これらの森林資源を循環利用し、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を両立させることが我が国の森林・林業にとって重要な課題となっています。こうした状況をふまえて、国有林のフィールドや技術を活用して民有林の支援に取り組みます。

森林共同施業団地における施業の連携

三重森林管理署は、民有林の森林所有者との間で森林整備の推進に関する協定を締結し、2箇所の森林共同施業団地を設定しています。これにより、効率的な路網の整備や木材の協調出荷、販売を実施することができ、施業の低コスト化、木材の安定供給等が期待されます。

1 大又森林共同施業団地（熊野市）

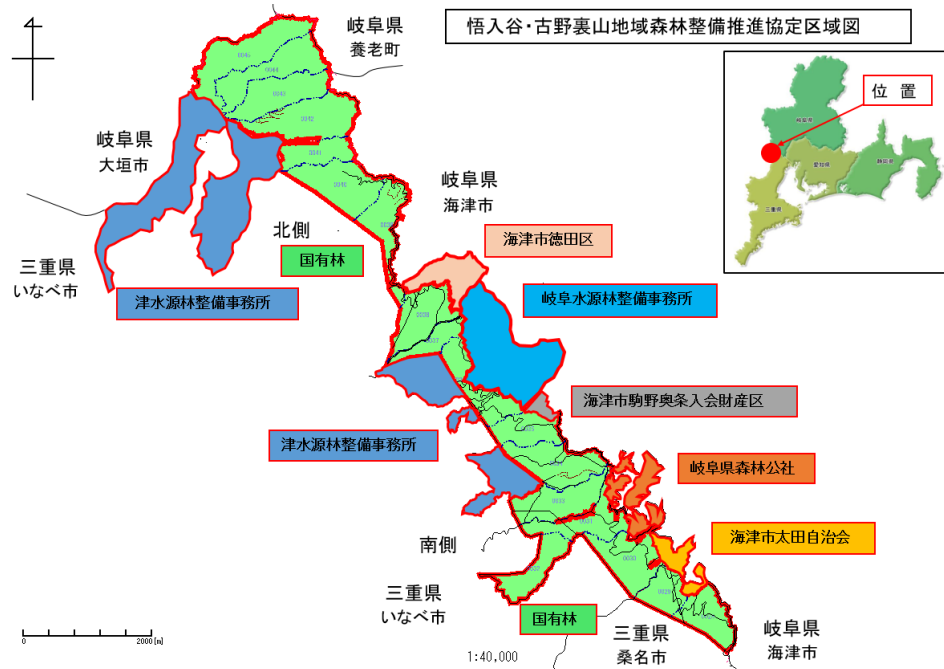
- (1) 面積：1,095ha
- (2) 協定者：熊野市、三重森林管理署（平成22年～）
- (3) 特徴
架線集材しかできない地域で、民国合わせて林道が循環線形になるよう整備を進めています。
- (4) 令和5年度の実行予定
運営会議等の開催（事業や予定等の情報交換）。

2 悟入谷・古野裏山地域森林共同施業団地（いなべ市、桑名市）

- (1) 面積：1,712ha
- (2) 協定者
津水源林整備事務所、岐阜水源林整備事務所、岐阜県森林公社、海津市太田自治会、同駒野奥条入会財産区、同徳田区（平成28年～）
- (3) 特徴
三重・岐阜県境の稜線部を走る国有林林道等に民有林の路網を連結して作設することによる路網の相互利用や、国有林内の木材集積場の活用により、効率的な木材搬出をめざしています。団地設定から5年間で民有林約96haの搬出間伐が行われました。

(4) 令和5年度の実行予定

- ・連絡調整会議等の開催（事業や予定等の情報交換）
- ・森林整備推進協定の区域拡張の検討
協定区域を岐阜県大垣市上石津町地内の民有林まで拡張することをめざし、関係者との調整及び路網整備の検討を行う。



現地検討会等市町への技術的支援

国有林のフィールドや技術を活用して、市町等民有林への支援に取り組みます。
令和5年度は、悟入谷国有林（いなべ市）において、11月に低コスト省力造林をテーマに現地検討会を開催する予定です。



【現地検討会の実施状況】
（いなべ市 悟入谷国有林）

みえ森林・林業アカデミーとの連携

みえ森林・林業アカデミーが行う市町職員講座の一環として、国有林における取組や利活用について、職員による講義及び現地見学を行い、県内市町の林務担当職員の育成に貢献していくこととしています。



【現地検討会の実施状況】
（悟入谷国有林 いなべ市）



【特定苗木の植栽】
（いなべ市 悟入谷国有林）

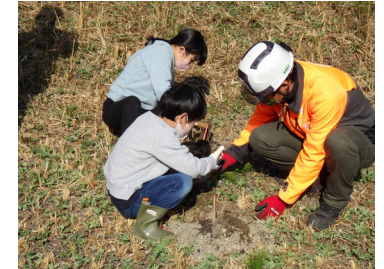
また、これ以外でもみえ森林・林業アカデミーの運営主体である三重県林業研究所からスギ、ヒノキ特定苗木の提供を受け、植栽試験を行うなど、連携を図っています。

森林とのふれあい・森林環境教育

1 七里御浜防風林GG作戦

七里御浜国有林（熊野市、御浜町、紀宝町）において、七里御浜松林を守る協議会による七里御浜防風林GG（グリーン・グロー作戦）を地域住民等と協力して平成5年度から行っています。

令和4年度も各市町毎に会場を設け、約150名の地域住民の参加をいただき、抵抗性クロマツ苗木の植栽や林内清掃活動を行いました。



【熊野市会場の実施状況】



【御浜町会場の実施状況】



【紀宝町会場の実施状況】

2 こどもチャレンジ教室

「遊々の森」の協定を締結している焼尾国有林において、平成21年度から実施しています。

令和4年度は子供と保護者の方を対象に森林散策を行い、樹種名を当てる「森林ビンゴ」などを楽しみました。



【森林散策の実施状況】

主要事業量内訳

区分	項目	単位	令和5年度主要事業量 (年度当初予定)
収穫	主伐	m ³	41,688
	間伐	m ³	41,107
販売	立木販売	m ³	42,498
	製品販売	m ³	6,300
造林	地拵	ha	—
	植付	ha	4.66
	下刈	ha	12.60
	つる切・除伐	ha	—
	保育間伐 (活用型・存置型)	ha	229.51
	保育間伐 (本数調整伐)	ha	16.20
林道	新設	m	300
	改良	m	596
治山	国有林直轄治山	百万円	65
	民有林直轄治山	百万円	—



- ①事業量（年度当初予定）には、前年度の繰越事業量を含みます。
- ②収穫、販売には、分収林の民収分の数量を含みます。
- ③林道には、林業専用道を含みます。
- ④治山には、災害復旧事業を含みます。

【問い合わせ先】

三重森林管理署

**TEL : 050-3160-6110
: 0595-82-0069**

所在地 : 三重県亀山市本町1-7-13